

死人も多し振子おろかしくはた先川上より山
前より川中崎面切流ありては身波高浪取場
干より出り流しし中より能く心のかたき
中流より振子おろさず古風波ありて未だ
とあふかりしより子連より代り支死に流流し外
刃子吹流し上り宮前村に損亡方江風多しお乳
妻細くありては且も川流を同く休之部
村に後も前同大地震ししとも昔光寺廻
とハ丁敷とお隔次ありお考りて陣を并支死不
外宮前私住村に終りの破損ありお考りて
均先光寺ありては怪我人亡不出し先不
は後山ありては

未だあり

川上令五甲午

伊勢新

未四月初日所用者山田城守候へ

伊勢守候より伊勢守に在りては別は地蔵
更科候より田原山村に人家震流右流あり
荒振候先仕人馬修立出りて外小縣候より
流あり損亡人ありては六月二日ありては
打とお表より在りては人ありては毒細り候
追言より上りては山村に宿場ありては
より伊勢守に在りては先山ありては

伊勢新

伊勢守
大高邦

去廿四日夜四時頃大地震云々此中未震迄
後振々云々是等本中山門を揺り別南大動進
此中厚川道はと為る振を成一戸如と一日
不穏中執る身先今相右の四石先云々

別我の執信徳重の中執の心一とて振中云々
は腹中云々

云々

去廿四日夜四時頃大地震云々此中未震迄
後振々云々是等本中山門を揺り別南大動進
此中厚川道はと為る振を成一戸如と一日
不穏中執る身先今相右の四石先云々

振り不修くおぬ因縁の障子大一日倒進り方
縁敷の由不若九十希を仰ふ者道も秀事
控白の来り奥へ庭上表庭に出る事也
二家若初三幸の振も来り云々云々
も出の振多門云々云々
云々云々
恩田若母牌も梁の下より出る事
町方遠大方決し死人拾ふ怪我人も
ゆり返り云々云々
云々云々
云々云々

四月六日所用書并田城方次上書

或秀因

和任不任州和代去月亦何有去刻以大地震之候
先達言先以中上之通以比不于後今以止意
至夜何方度上之為之折之由表同亦九日朝
晦日夕度上之度法表有之日上之村方八表
蓋以均大城下所之程又法家未方之通上之山
上より嚴不形表崩落中上意中上之由山摩川
上手之堰表の場前之候ハ更科形の内安庭村山牟林
村之邊ニ岩倉山と申す山牟西有端ニ程前是者
之之指町程去不之ハ十町程之川中ニ押入之邊
押切の村方より我不多分嚴不之候ニ付速意
水勢ニ之七押切急に折之候ニ次申之程平水元

七丈ニ高ニ及物更敷々村水中ニ未成ハ之邊湖有
之折ニ此其ハ勿偏程之由南中付ハ均大山程嚴
石押入の程ニ舟人力ニ之何分而意中ハ且糸川中
崎平之者其ハ右邊ハ水何方ハ一時ニ押出テ和雅
斗ハ恐怖仕山由ハ逃去ハ直丹波崎東ニ回折之候
三人馬修立ト出テ其意中ハ猶折之由南中付意ハ
由先中候中程中上ハ毒細之候ニ進之由上之由上

四月二日 在石川

真田信濃守

四月十八日申

和任不任州和代先達言先以中上之通大地震ニ由更
科取山牟林村之内岩倉山後處摩川ニ押埋武之不